

女は正しく清きを慕い、

女

おんな

は

貞

てい

潔

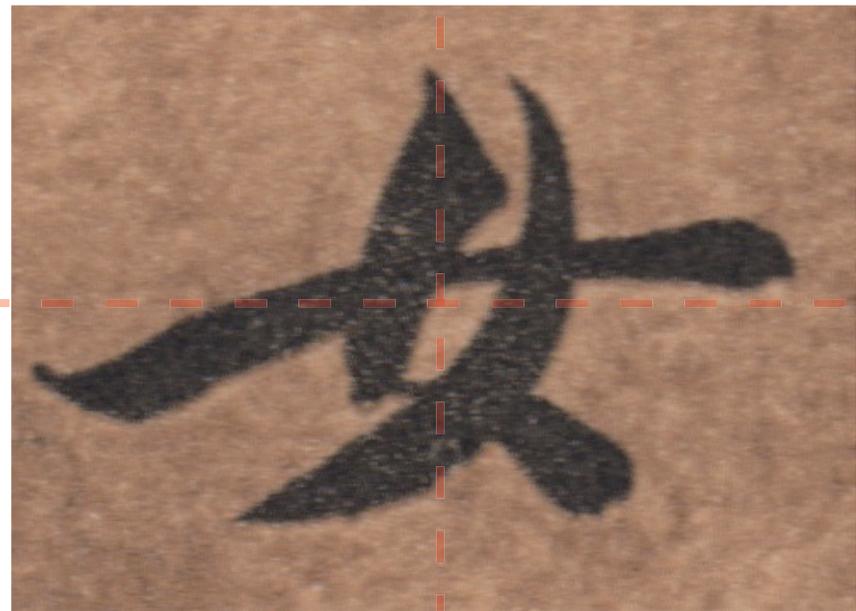
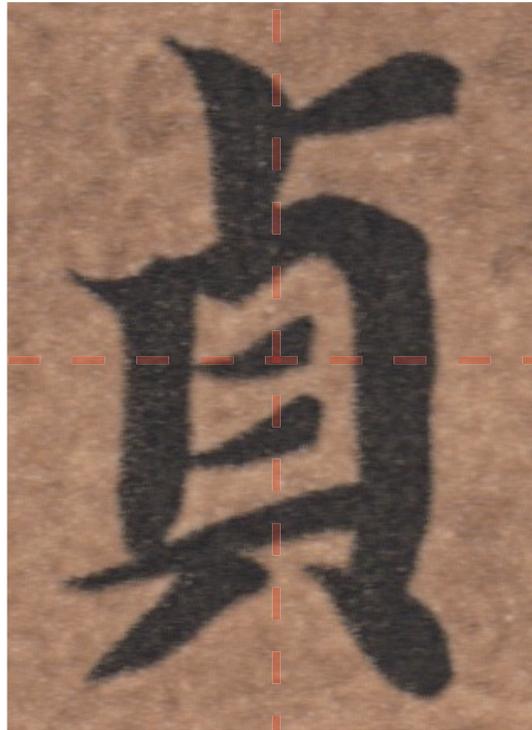
けつ

を

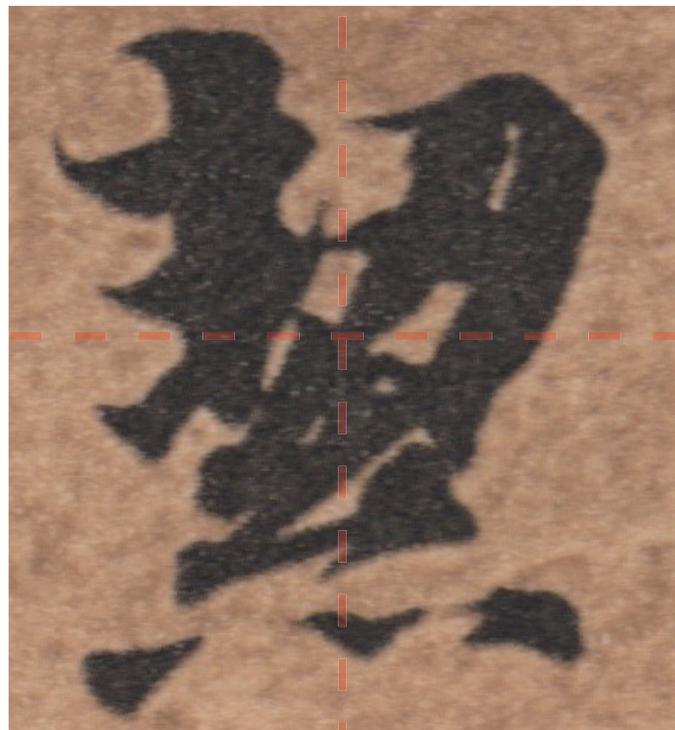
慕

した

ひ、



庚



男は、はたらきのある人のようになろうとする。

男

おとこ

は

才

さい

良

りょう

を

効

なら

ふ。



灰

覃

陽

※効と同字

己の過失に気付いたら必ず改め、

過

あやまち

を
知

し

ら
ば

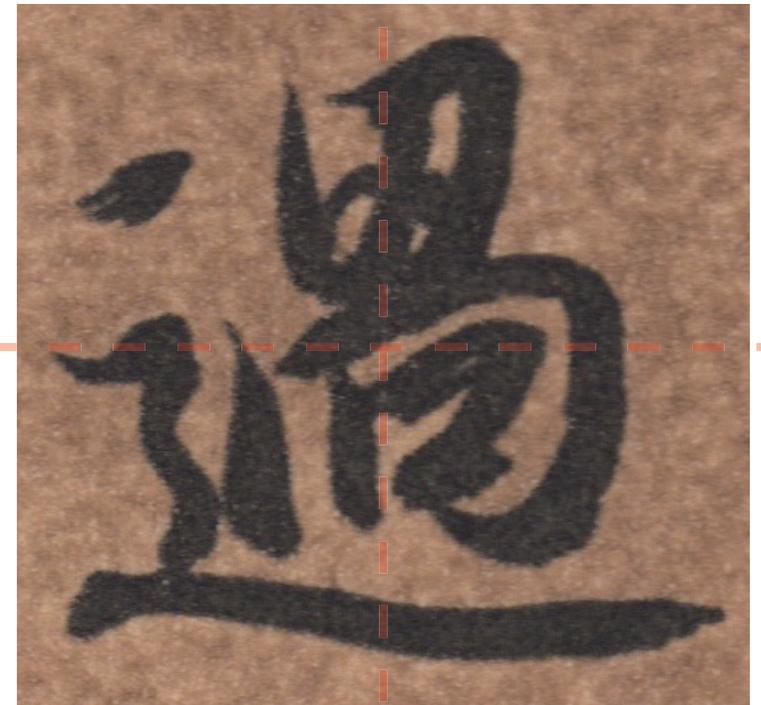
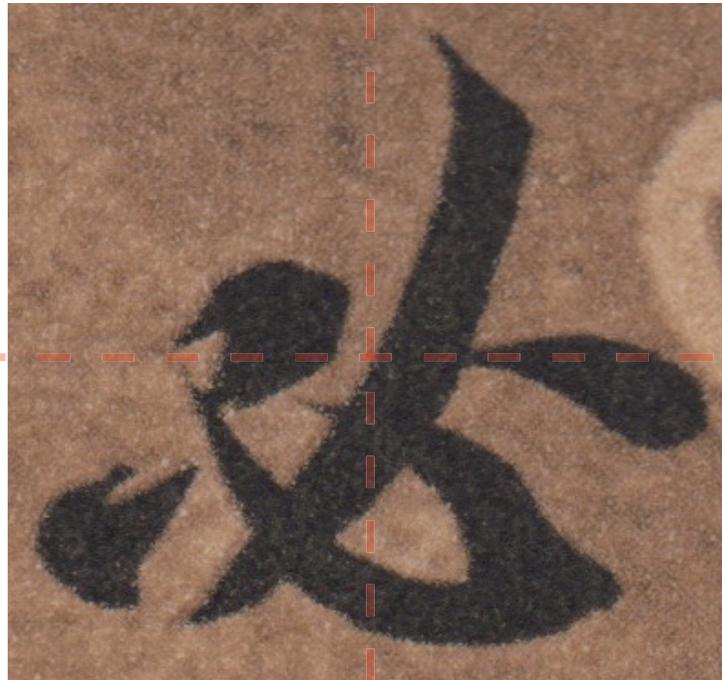
必

かなら

ず
改

あらた

め、



支

歌

※改と同字

修め得た教養や習得したことは忘れないようにすること。

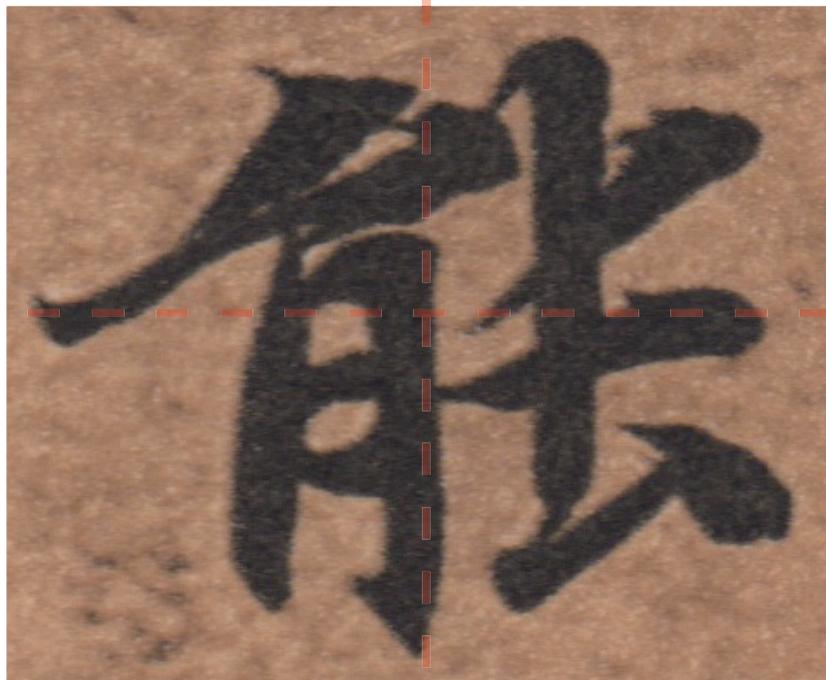
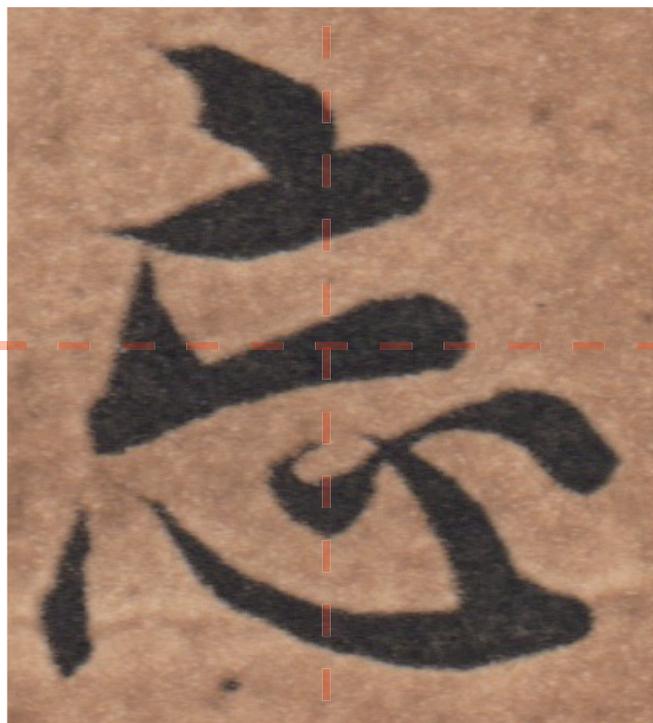
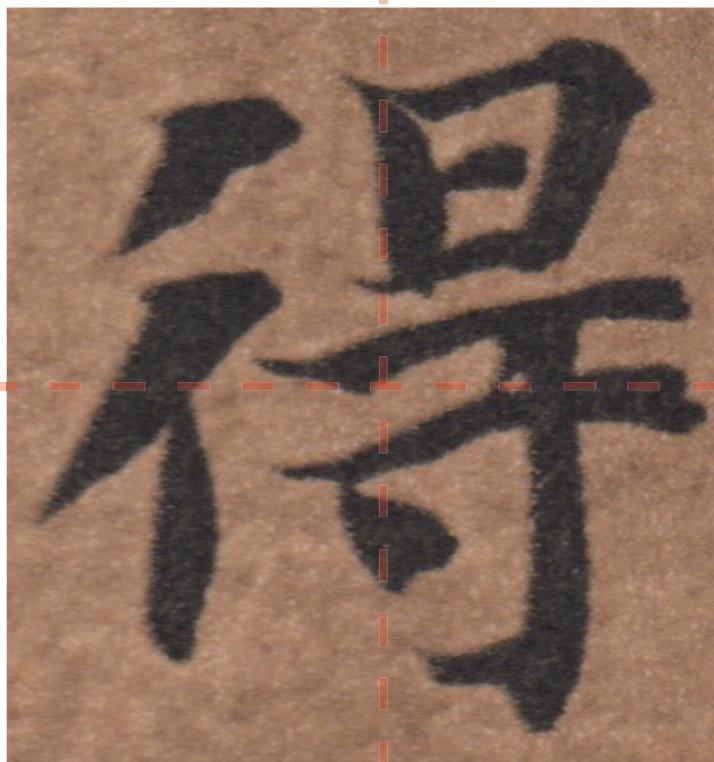
能のう

を
得え

ては
忘わす

るること

莫なかれ。



※能と同字

陽

蒸

彼 か

の

短 たん

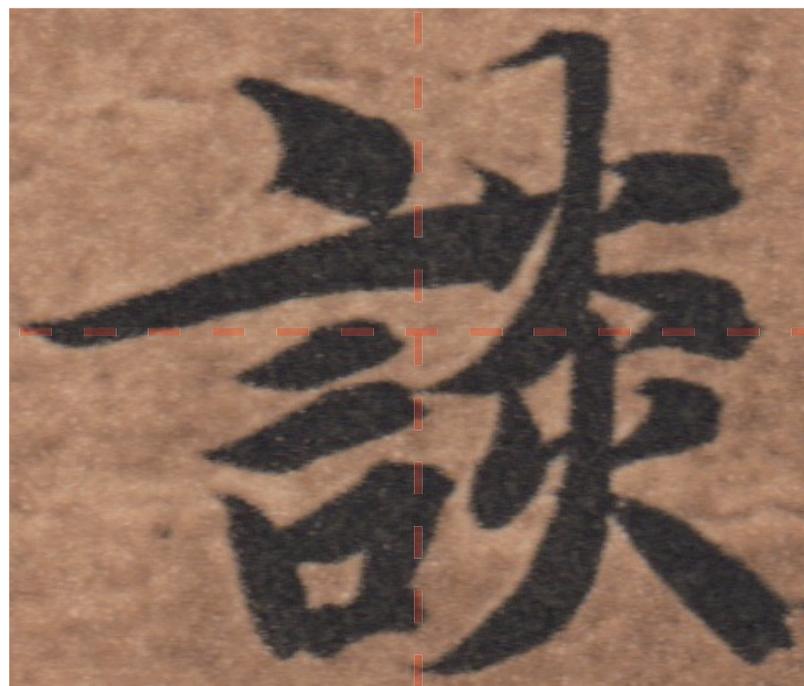
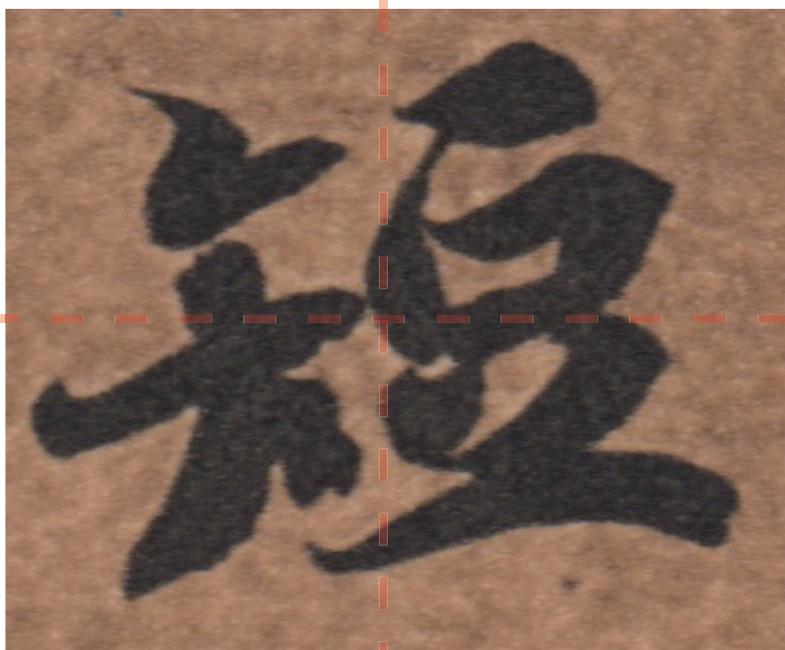
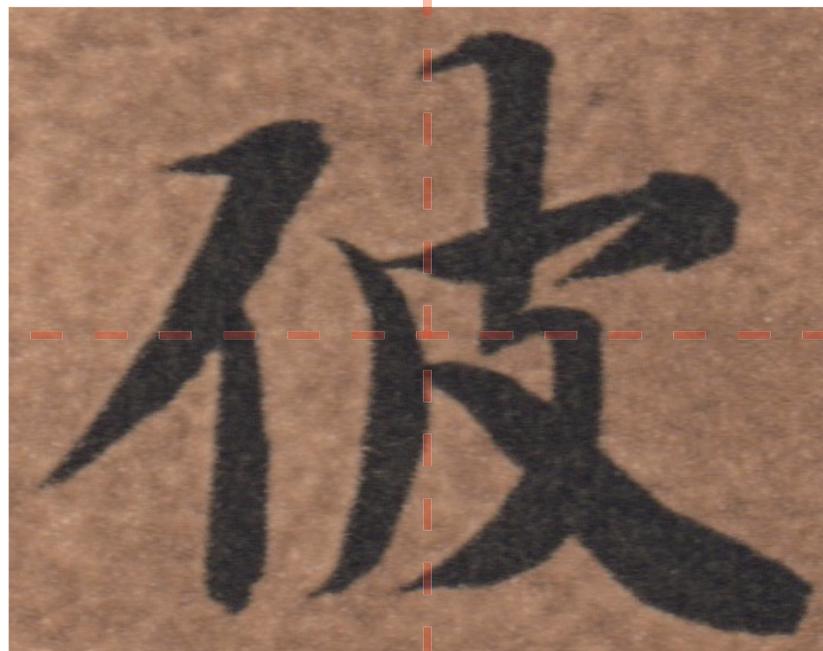
を

談 だん

ずる

罔 なか

れ、



他人の欠点を語ってはならない、

※彼字を人偏にするのは余り見ない。後のこれを臨した書家や碑に刻したものは彼に直している。ただし行人偏の他の字を人偏に作るのは間々見受ける。

自分の長所に奢り高ぶってはならない。

己

おの

が

長

ちよう

を

恃

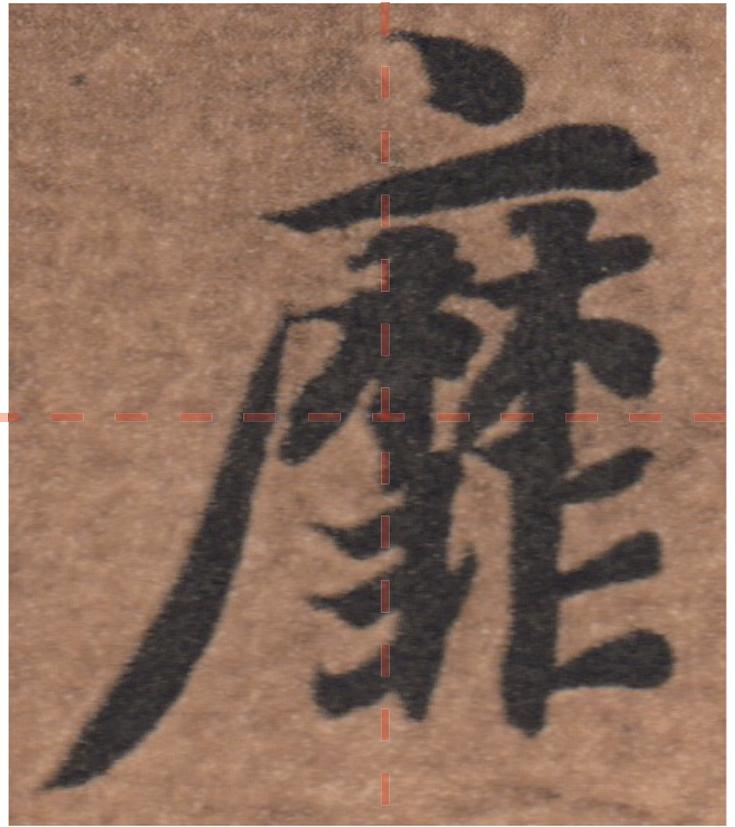
たの

む

靡

なか

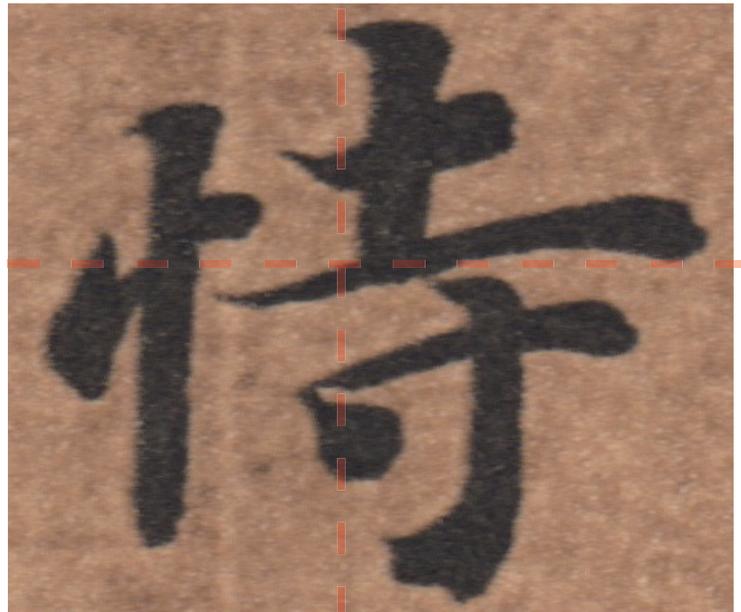
れ。



支



陽



歌

約束ごとは必ず守り、

信 しん

は

覆 ふ

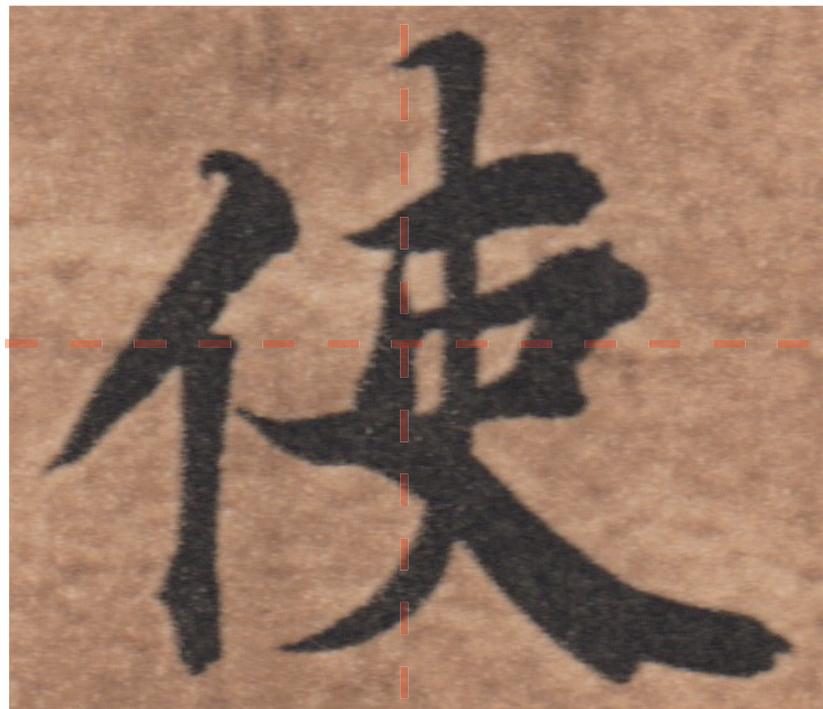
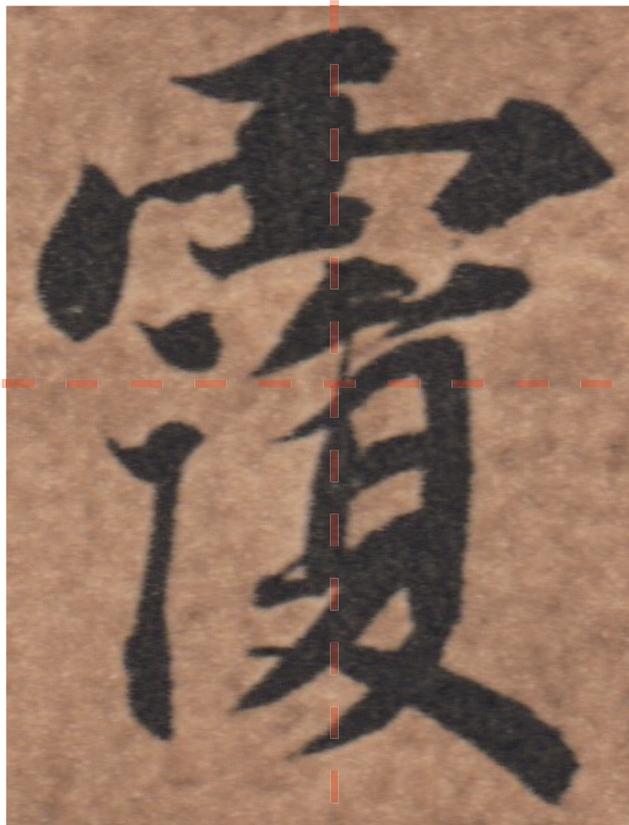
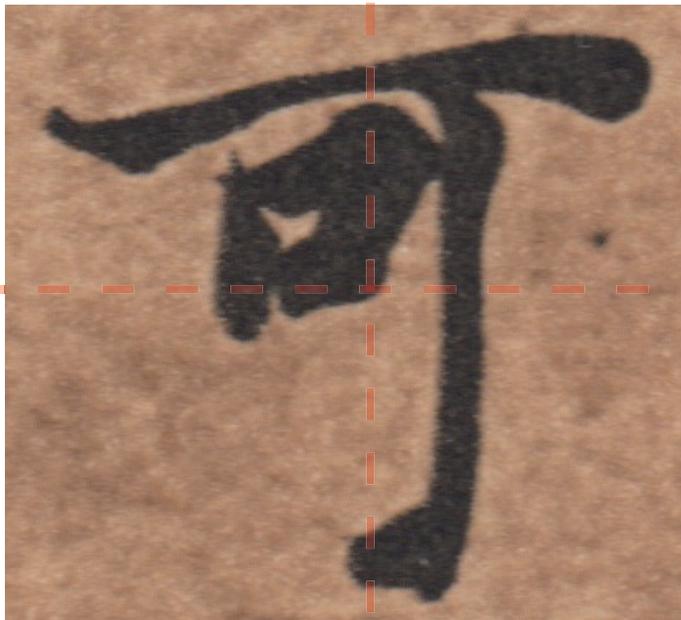
む

可 べ

から

使 し

め、



※覆と同字

己の器量は他人に量り難いようにしておく。

器

き

は量

はか

り難

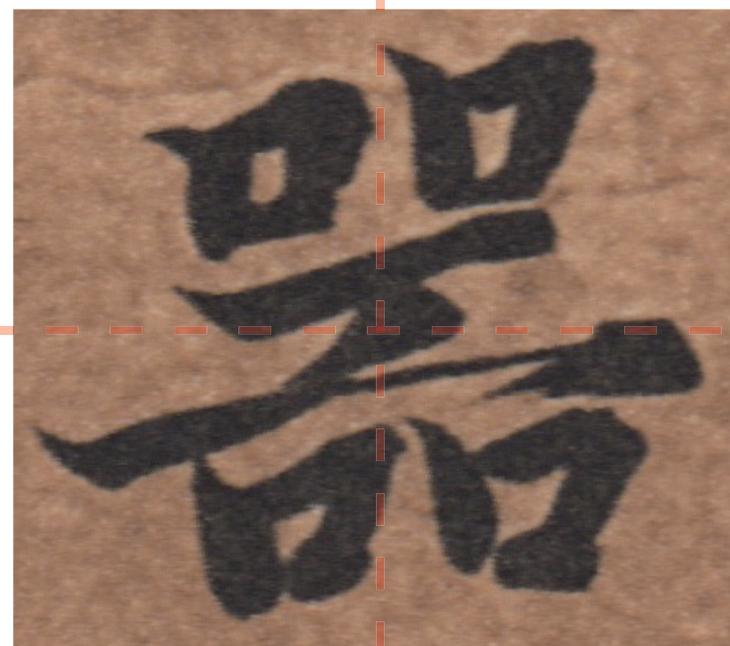
がた

からんことを

欲

ほっ

す。



※器と同字

寒



陽

墨

ぼく

は

糸

いと

の

染

そ

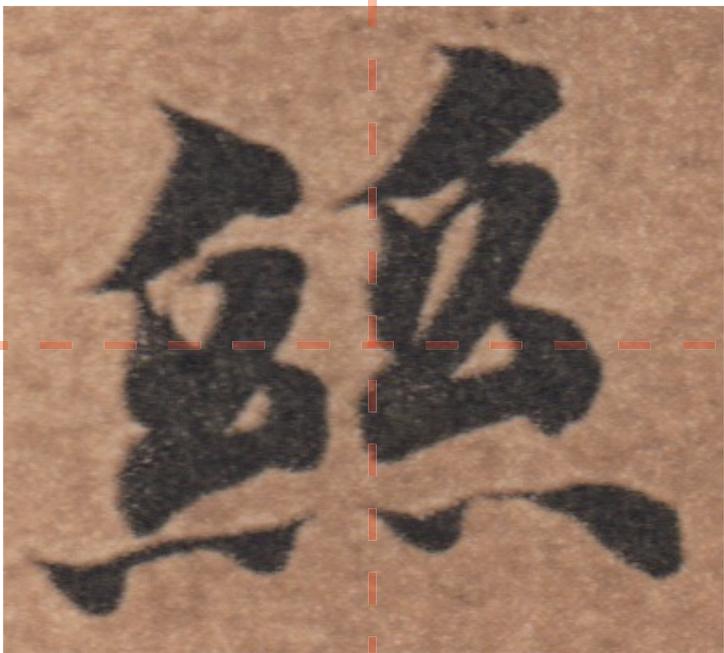
まるを

悲

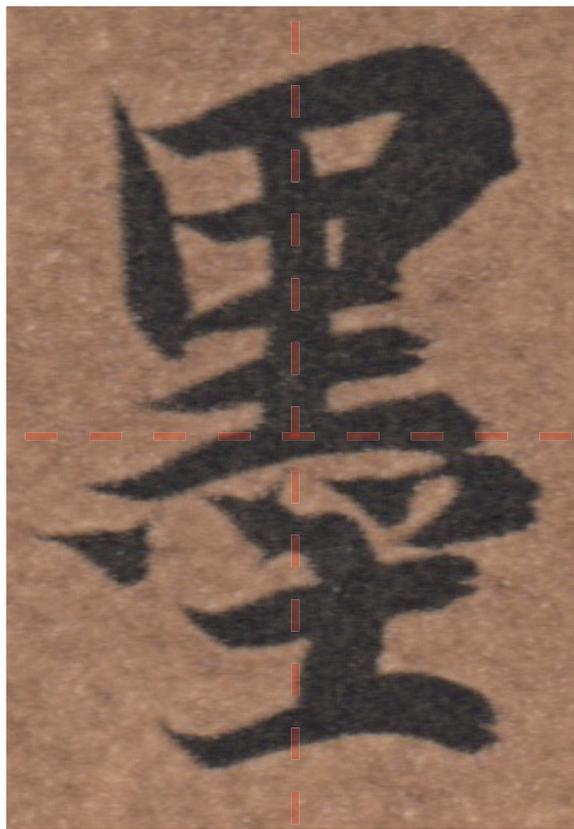
かな

しみ、

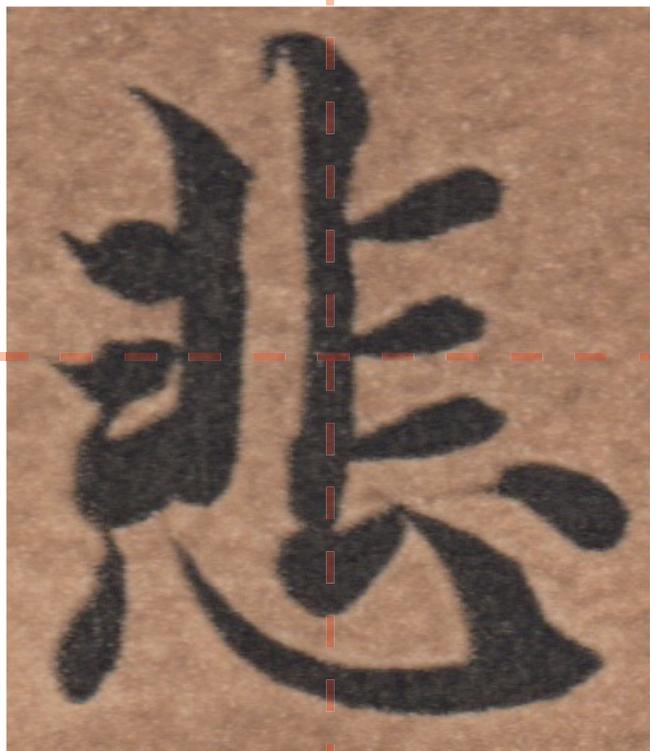
墨は糸に染まりやすいように、
(人の心も悪に染まりやすいことを憂いた)



※糸と同字



※染字を染としたのは他に例を見ない。
また染と染では韻も違う。
ただし染には染まるという意味もある。



詩経は官吏も質素な子羊の皮衣を着たと讚えた。

詩 し

には

羔

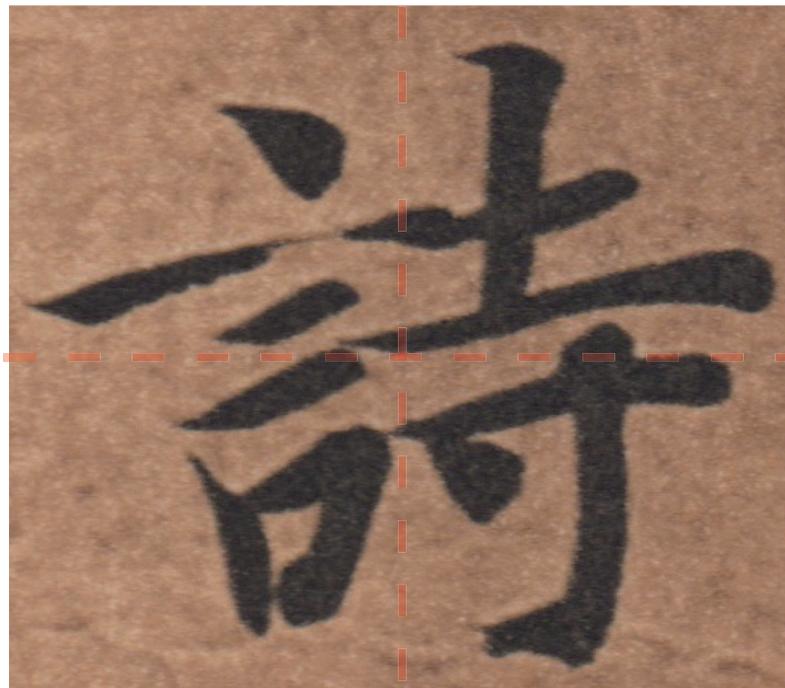
こうよう

羊

を

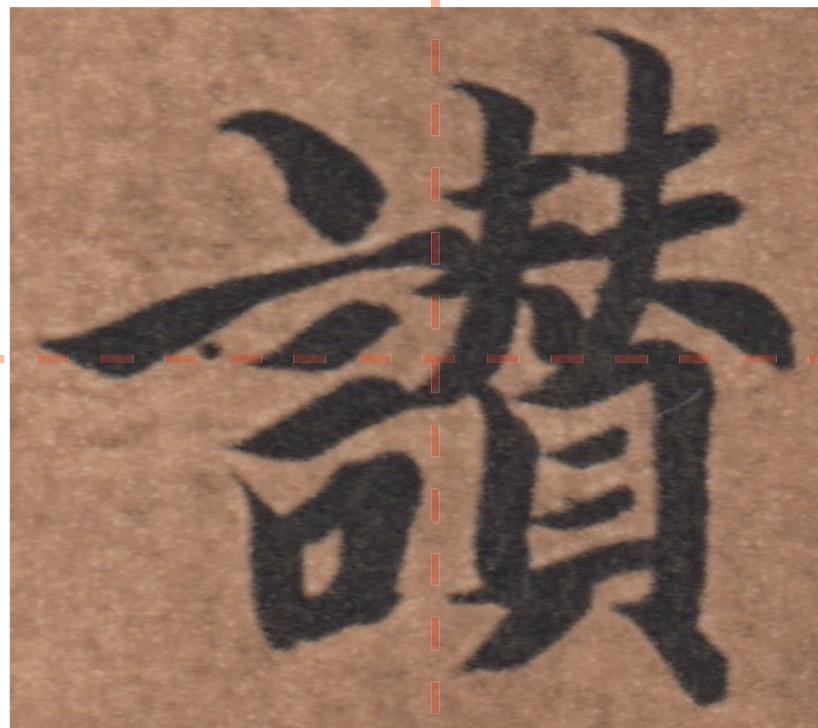
讚 さん

せり。



豪

支



陽

●